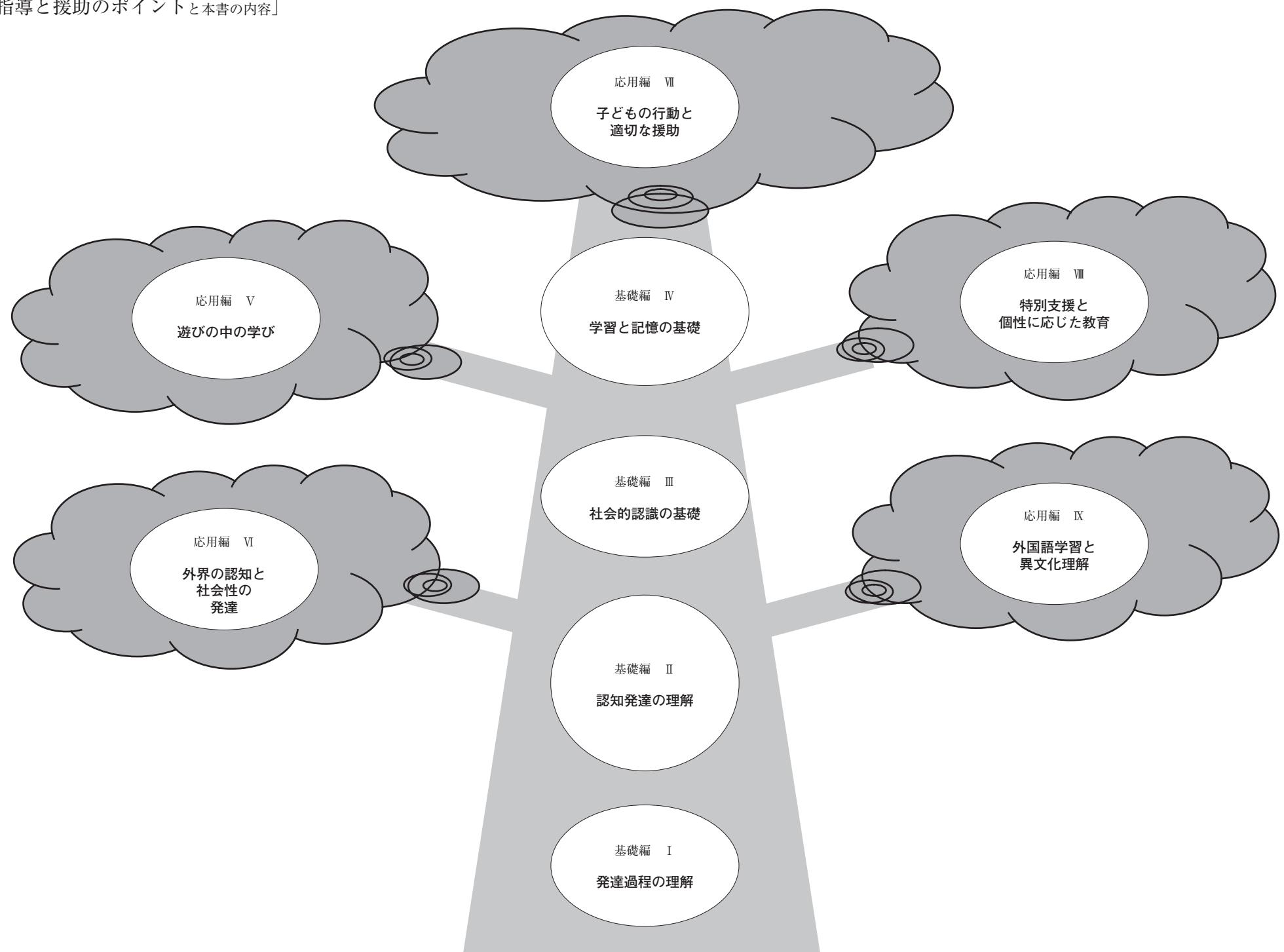


[9 の指導と援助のポイントと本書の内容]



発達と教育

心理学をいかした指導・援助のポイント

井上 智義

山名 裕子

林 創

樹村房

JUSONBO

はじめに

本書『発達と教育：心理学をいかした指導・援助のポイント』は、2007年に樹村房より出版された『教育の方法：心理学をいかした指導のポイント』の姉妹版です。本の基本的な構造やコンセプトはほぼ踏襲していますが、本書は「発達的な視点」を全面に出しています。そこには以下のような執筆者の思いがあるからです。

執筆者の3名は、いずれも発達心理学と教育心理学を専門にしています。幼児期・児童期の子ども、そして文化的背景の異なる子ども、聴覚に障がいのある子ども……さまざまな子どもの発達過程を基礎に、教育のあり方について研究しています。ときには実験的な手法をもちいて、ときには発話分析などの質的な手法をもちいて、多面的に子どもの発達過程をとらえようとしています。またそれが現場に赴き、子どもに接しながら、「発達的理解とはどういうことなのか？」ということを考えようともしています。しかし教育の現場では、必ずしも子どもの発達的理解に基づいた教育がおこなわれていないこともあります。たとえば、幼児教育の世界でも、いわゆる「〇〇式」と呼ばれるような画一的で科学的根拠が乏しい教育方法がおこなわれていたり、3歳児でも「あの子は落ち着きがないから障がいがあるのでは……」など、いわゆる発達障がいの間違った認識がみられたりします。

子どもの教育にかかわる大人は、一人ひとりの子どもの発達を理解しながら、子どもと接する重要性を肌で感じています。しかし一方で「単調増加」的な発達理解、「小さな大人」としての子ども理解、自分が育ってきた環境に基づく教育など、必ずしも適切でない発達的理解に基づくことも現実にあります。それは発達を理解するという、とても当たり前ではあるけれども難しく、答えが一つではない発達観を、実はさほど議論してこなかったからだと思っています。一見「効果的」な教授法は、ともすれば、すぐに効果がなくなるものかもしれません。何かが「できる」ことだけを重視するのであれば、それは簡

単にできなくなることをさすかもしれません。そうではなく、私たち、一人ひとりが当たり前と思っている発達的理解とはどういうことなのか、発達観とはどういうものなのか、今一度、目の前の子どもと向かい合いながら考えることが、大切なことだと考えています。

本書を読み進めていただければおわかりになるかと思いますが、執筆者3名も、教育において発達の理解をふまえることがもっとも重要である、ということは共通認識としてもっていますが、それぞれの発達観は違います。本書では、それぞれの発達観をいかしながら、それが教育において重要だと考える発達的理解について執筆しています。読者のみなさまも、各執筆者の発達観に触れながら、ご自身の発達的理解、発達観を深めていただければ幸いです。そしてそれをきっかけに、多面的に子どもをみていただければ、と思っております。

最後になりましたが、樹村房の大塚栄一氏、石橋雄一氏に心よりお礼を申し上げます。大塚氏は前作の『教育の方法』からたずさわっていただいております。学会でお会いするたび声をかけていただき、さらにインフォーマルな会議の中では、一冊の本にこめる思いを熱く語っていただき、私たち執筆者も触発されました。また石橋氏には、編集作業の中で温かい激励をしていただきながら、さまざまな調整をしていただきました。お二人の寛容なお力添えがあったからこそ、執筆者それぞれの個性を充分に發揮できた本書が完成したのではないかと思っております。記して感謝いたします。

2011年5月10日

執筆者を代表して 山名 裕子

もくじ

はじめに.....	iii
本書の効果的な使い方.....	vi

基礎編

I 発達過程の理解	1
II 認知発達の理解	19
III 社会的認識の基礎	45
IV 学習と記憶の基礎	57

応用編

V 遊びの中の学び	79
VI 外界の認知と社会性の発達	97
VII 子どもの行動と適切な援助	117
VIII 特別支援と個性に応じた教育	133
IX 外国語学習と異文化理解	151
あとがき	171

引用文献	172
さくいん	179

前見返し……9の指導と援助のポイントと本書の内容（構造図）

後ろ見返し……9の指導と援助のポイントの解説

本書の効果的な使い方

本書はそれぞれのトピックについて、見開き完結型の構成です。これは、ひとつまとまったトピックを効率よく学習するための工夫です。左側ページの説明文はできる限り簡潔な内容にとどめ、右側ページに図表や写真・イラストを配置することにより、具体的な理解を促進させるヒントを示しています。

発達心理学や教育心理学の辞書として活用したい、資格試験や採用試験などで出題されやすい項目を勉強したい、仕事仲間が使っている用語を正しく理解したい、そのようなときに、きっと役立つでしょう。

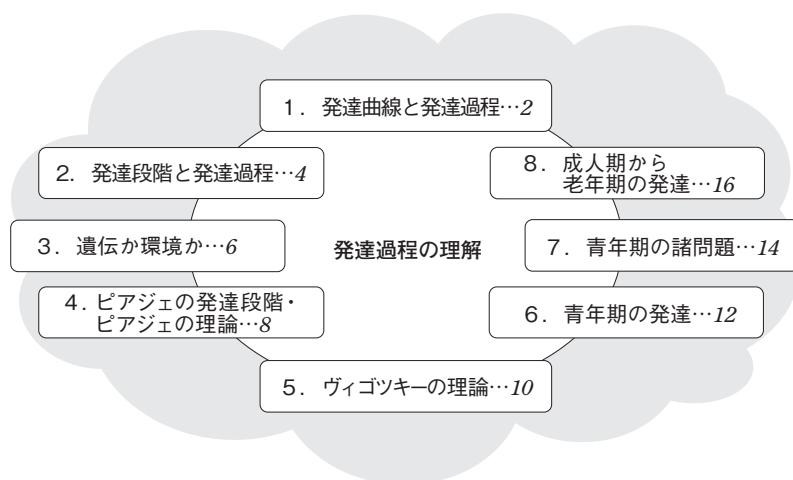
それだけではなく、本書では、好ましい子どもとの接し方や発達のとらえ方について、読者の皆さんに考えてもらえるように、子どもの様子を具体的に記述することにも心がけました。単なる用語の知識の詰め込みに終わることなく、発達と教育をとらえる適切な視点について学んでいただければと思います。子どもの立場に立つことによって、好ましい発達観や教育観が見えてくるのではないでしょうか。実際にいる子どもの様子と記述内容をダブらせながら、是非お読みください。

細切れの時間はあっても落ち着いて勉強できない、ゆっくり時間をかけて読書することができない、そういう多忙な人たちのために、本書はあえて見開き完結型の読みやすい形式にしています。ですから、本の最初から順序だって読んでいく必要はありません。読みたいと思うトピックから、あるいは、気になる用語が書かれているページから、自由にお読みください。もちろん、関連の内容が、そのトピックの前後に掲載されていることが多いはずです。ついでに、それらの内容も必要に応じて参照ください。

内容的には本書は四つの章からなる基礎編と、五つの章からなる応用編に分かれています。応用編のある章から読み始めて、基礎編に戻る、そして他の応用編を読んでいく。そのような順序での読み方が、本書を効果的に活用するのに適しているかもしれません。

(文責：井上智義)

I 発達過程の理解



発達心理学の基本的な考え方、基礎的な理論がまず紹介されています。最近では、「発達」という用語は、一生涯の発達を意味することが多くなりました。身体が大きくなること、できなかったことができるようになることだけが発達だと思っておられる方は、この章をゆっくりお読みください。

I - 1

発達曲線と発達過程

年齢にともなう心身の変化の様子を、横軸（x 軸）に時間（年齢）、縦軸（y 軸）に成長または発達する量の計測値をとて構成した曲線を、成長曲線（growth curve）または発達曲線（developmental curve）と呼ぶ（藤村, 2005）。

発達曲線は、図 I-1 のようにさまざまな発達過程を示すことができる（I-2 参照）。たとえば、単調増加の線形曲線、何も変化しないように見える時期がある曲線などがある。そして、波線のような右肩あがりの単調増加する曲線を、いわゆる平均的な発達段階としてきたことも事実である。しかし、そのような平均的な子どもは現実的には少ないかもしれない。

いろいろな曲線の中でも、それまではできていたことが、途中いったん減少してからまた上昇するような曲線を U 字曲線と呼ぶ。図 I-2 ような課題があったとしよう（西林, 1988）。この課題は、1 本の長さが 60 cm の模型の柵が 2 本あり、さらに折り曲げて、一方は正方形、一方は長方形を作る。2 つの四角形の面積はどちらが大きいだろうか？ 同じだろうか？ これを 3 歳から大学生まで対象にした結果が図 I-3 になる。低学年の子どもには、「面積」ということばがわからない場合があるので、緑色の紙の上に正方形と長方形の柵を置き、中にそれぞれウシのおもちゃを置いて「どちらのウシがたくさん草を食べられますか。それとも同じですか？」と聞いている。

おわかりのとおり、長方形に比べて正方形の方が大きくなるのが正答となる。しかし図 I-3 のとおり、必ずしも年齢にともなって正答が増えるわけではない。むしろ、幼い年齢の子どもの正答率が高く、小学校に入ると低くなり、大学生になると再び高くなる、という曲線を描く。「周の長さが同じなら、正方形でも長方形でも面積は同じ」と考えることが大人でも多いが、知識や経験が増えることによって、このような混乱を示すこともある。

私たちは、年齢が上がるといろいろなことが「できるようになる」と考えがちである。しかしそうではなく、年齢が上がるからこそ、できなくなったり停滞してみえることも多くある。一人ひとりの子どもの発達過程をどのように理解するのかによって、その子どもへの援助は変わってくるだろう。

I-1 発達曲線と発達過程

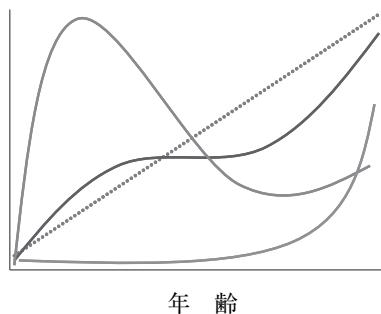


図 I-1 さまざまな発達曲線

▶波線がいわゆる平均的な発達曲線だとしたら、それ以外の発達過程を描く子どももたくさんいる、ということを示している。

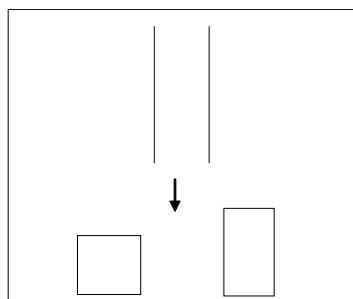


図 I-2 同じ周長の正方形と長方形、どちらの面積が大きいか？（西林、1988）

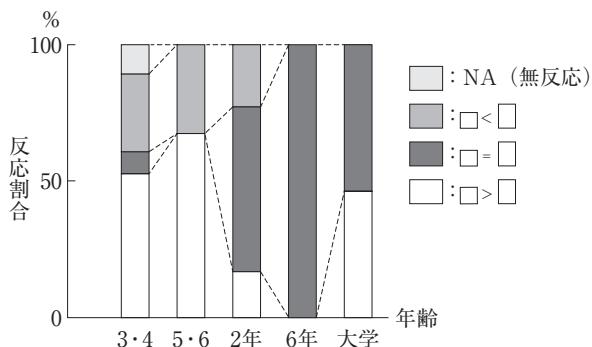
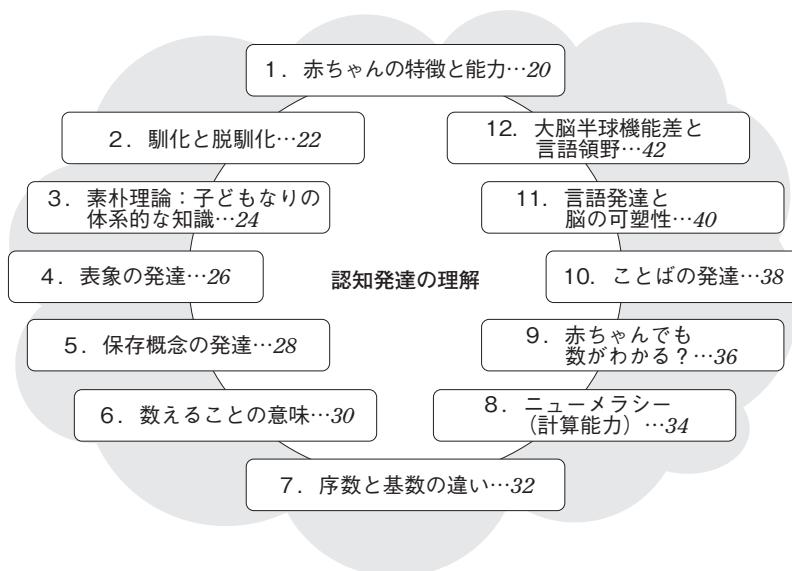


図 I-3 等周長課題に対する反応別割合（西林、1988）

(山名)

II 認知発達の理解



乳幼児期の子どもたちを観察することでいろいろとわかってくることがあります。子どもは「小さなおとな」ではありません。子どもなりに物事を理解して、子どもなりに毎日多くの問題解決をしています。数概念の発達やことばの発達の基礎もこちらの章で紹介されています。

II-1 赤ちゃんの特徴と能力

乳児期は、ピアジェの発達段階において感覚運動期に相当する。この時期は、感覚や運動動作によって、直感的に対象を認識する時期である。刺激（見えたり聞こえたりする対象）と反応（行動）が、言語や表象とほとんど関係なく結びついており（II-4 参照），外界の認識には、特定の刺激に対して体の一部が即応する「反射（reflex）」が重要な役割を果たす。

この時期の反射には、吸啜反射（口に入ったものをリズミカルに吸う），把握反射（手のひらに触れたものを握ろうとする），バビンスキー反射（足の裏を刺激すると指を扇状に広げる），モロー反射（赤ちゃんの顔を正面に向けて上体を起こした後、頭を急に落とすように動かすと両腕をのばして抱きつくような動作をする）などが知られるが、生後3～4ヶ月頃から消失していく。

また、生後すぐの赤ちゃんは視力が弱いことも特徴である。視覚能力の発達はゆっくりであり、3～5歳で成人みなみの視力に達する。しかし、視力が不十分な中でも、出生後まもない時期から、赤ちゃんは情報量の多いものや新しい刺激を積極的に選択している。静止したものよりは動きのあるものに、色のないものよりは色があるものに、平面よりは立体に関心を向けるのである。

また、床が落ち込んでいるものの透明のガラスが張られている装置を使った「視覚的断崖」の研究から、奥行きの知覚も幼い頃から既に認識できていることがわかっている。6ヶ月児のほとんどは母親からの呼びかけが浅い方側からであれば喜んでそちらの方に移動したにもかかわらず、深い側からの呼びかけに対しては断崖の所で躊躇したり、泣き出したりした（Gibson, 1960）。

視覚の発達の鍵として、能動的な動きが重要（Held & Hein, 1963）である。生後すぐのネコ2匹を、一方は能動的に動けるがもう一方は受動的な動きしかできないようにした実験で、その後の視力の発達を調べたところ、同じ視覚経験を受けたにもかかわらず、受動的なネコの視力は、能動的なネコよりも劣っていた。このことから、知覚を発達させるには、単に子どもに豊富な刺激を与えれば良いわけではない。むしろ子どもが積極的に探索するなど、能動的な経験ができる機会を与えることこそが大切であるといえよう。

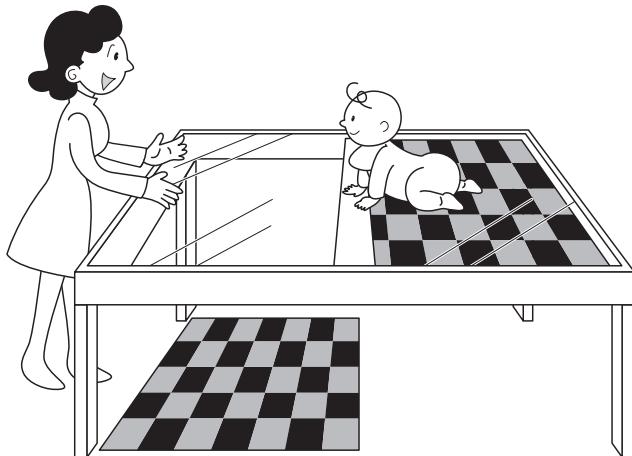


図 II-1 視覚的断崖（無藤, 2004を参考）

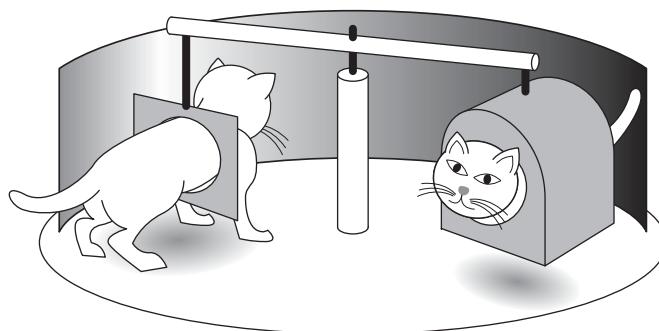
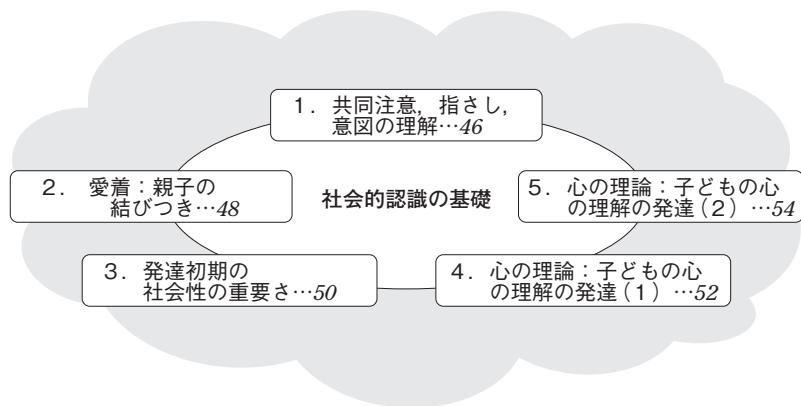


図 II-2 能動的なネコと受動的なネコ（山口, 2005を参考）

■能動的なネコは、自分の自発的な動きによって外界の変化を経験できるが、受動的なネコは、自分の意思によって動けず、能動的なネコが動くときのみ、外界の変化を体験できた。理論的には、同じ視覚経験を受けるにもかかわらず、受動的なネコの視力は、能動的なネコよりも劣っていたのである。

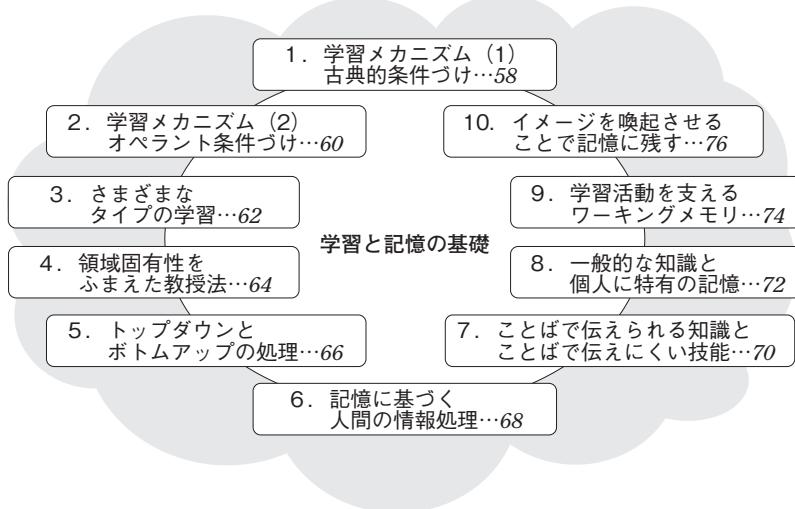
(林)

III 社会的認識の基礎



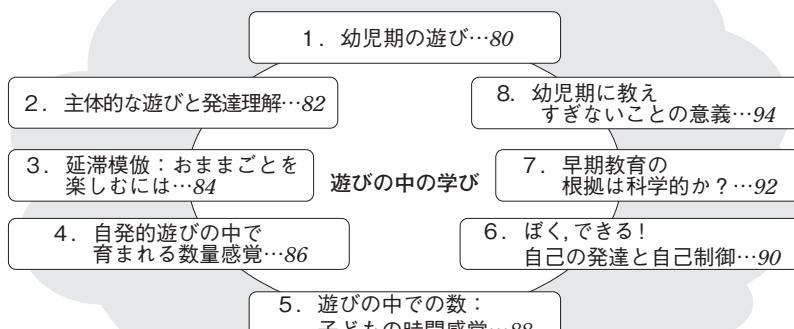
ヒトはひとりで生きていくことはできません。ヒトは母親のお腹の中にいるときから、周りにいる人間に影響を与え、また、周囲にいる多くの人間の影響を受けて成長します。信頼できる他者とかかわるなかで、自分の気持ちを表現できるようになり、相手の気持ちにも、少しづつ敏感になっていきます。

IV 学習と記憶の基礎



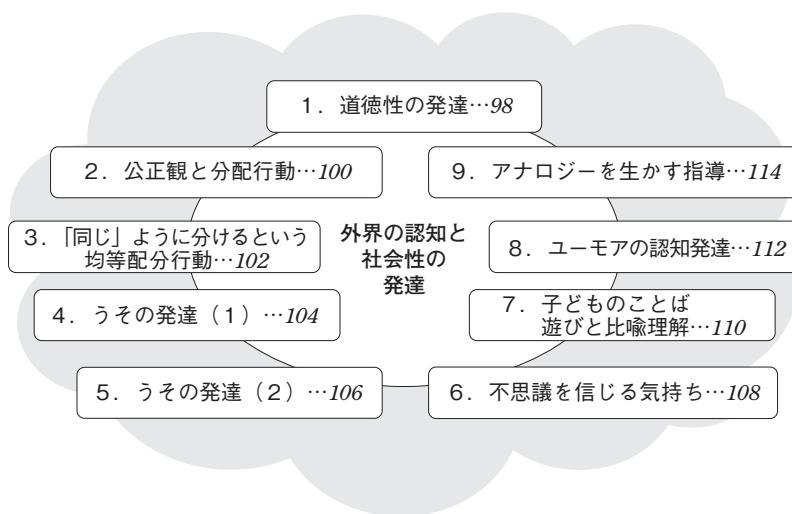
新しい難しいことを覚えることだけを「記憶」や「学習」と呼んでいるではありません。何らかの出来事によって行動パターンが変化することを、心理学では「学習」と呼びます。また、「記憶」と呼ばれるものの中には、さまざまな内容が含まれます。日常のさりげない行動も、私たちの記憶に支えられています。

V 遊びの中の学び



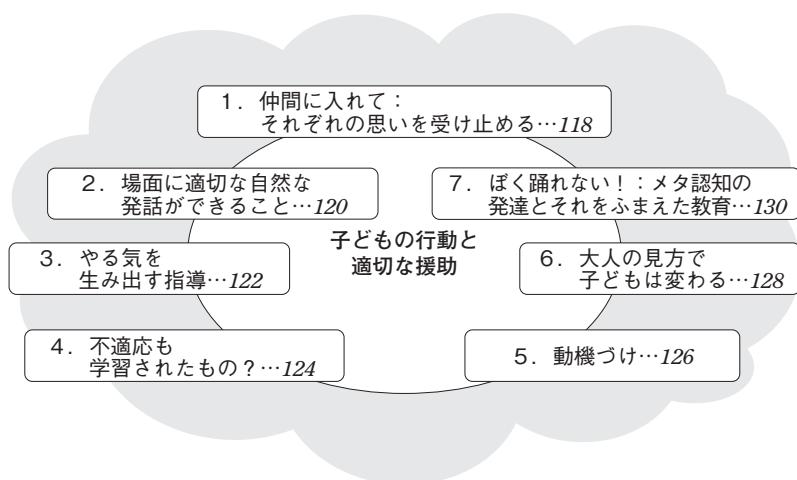
「遊び」と「学び」は、まったく逆のものだと思っていませんか。教室の中のような学習場面で何かを覚えることだけが「学び」ではありません。とりわけ幼児期には、子どもが自発的な「遊び」の中で身につける多くの事柄があります。幼児期にしっかり遊ぶことの意義を、いま一度考えてみたいと思います。

VI 外界の認知と社会性の発達



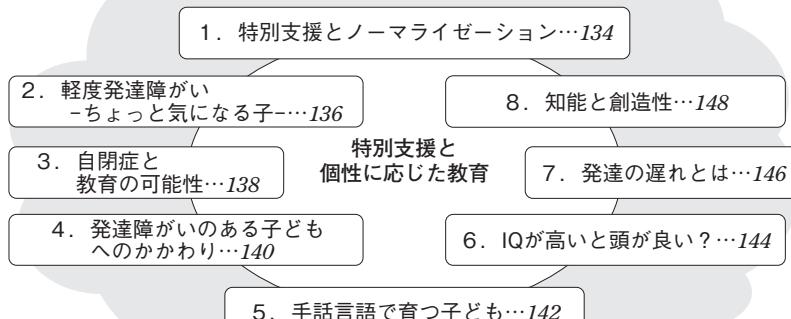
子どもは、自分の周りの世界をどのようにとらえているのでしょうか。「社会化」とは、子どもがある社会に属し、その社会で適応的に生きていけるように、そこでのルールを認識し、その社会で適切だと思われる行動様式を身につけていくことを意味しています。子ども特有の認知や、一見おかしな行動も、この章を読むと理解できるかもしれません。

VII 子どもの行動と適切な援助



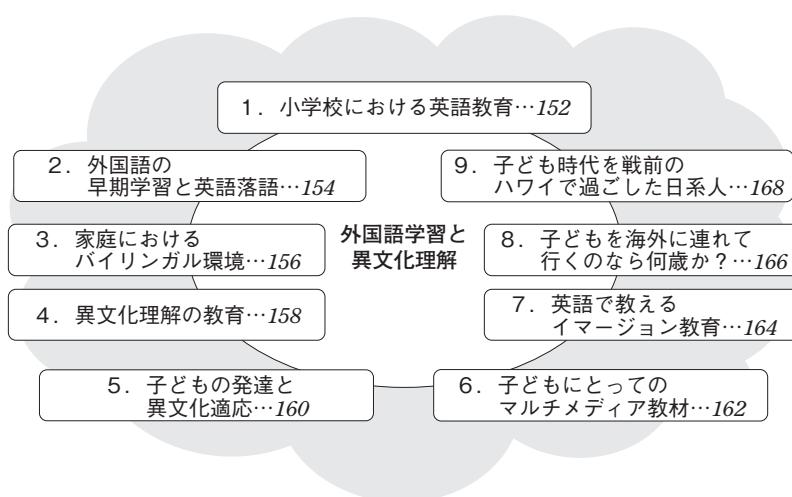
子ども時代を経験していない大人はいないはずなのですが、子どもの立場に立って子どもの行動の意味を読みとることは、じつに難しいことです。仮に同じ一つの行動ができるようになったとしても、誰かに強制されましたとのと、自ら自発的にしたのとでは、その意味するところは大きく異なります。どのようにすれば、子どもが納得できるような支援ができるかと一緒に考えてみませんか。

VIII 特別支援と個性に応じた教育



障がいの診断名だけで、目の前にいる子どもをとらえていませんか。同じ診断名をもっている子どもであっても、一人ひとりはみんな異なる個性豊かな人間です。「障がいのある子どもは」とか、「発達の遅れた子どもは」と、ひとくくりにするのではなく、一人ひとりの個性に着目して、より適切な支援ができるように心がけたいものです。

IX 外国語学習と異文化理解



社会の国際化が進む中にあって、子どもにも幼い時から、外国語を習わせたい、異文化に触れさせたいと願う親は少なくないでしょう。ただ、その方法や環境づくりには、少し工夫をしたほうがよいというのが、心理学研究の成果から示されています。子どもに不必要的ストレスを感じさせない方法を、ぜひこの章から読みとってください。

あとがき

本書『発達と教育－心理学をいかした指導・援助のポイント』の企画は、2008年7月にドイツのヴュルツブルクで開催されたISSBD (International Society for the Study of Behavioural Development) の国際学会での雑談の折に生まれました。本書の執筆者3名が、前書『教育の方法－心理学をいかした指導のポイント』を授業の教科書や参考図書としてもちいながらも、発達的な説明が少ないことを共通で感じていたことがわかり、第一著者の発案で「次は発達と教育を合わせた姉妹版を書いてみましょう」ということになったのです。

新しくテキストを作るからには、大学や専門学校などの「発達心理学」や「教育心理学」に関連する講義や演習で教科書として使えるだけでなく、幼小中高そして特別支援の先生方や保育士の方々などが読んで役に立つ内容を目指しました。つまり、授業で取り上げられる基本事項と教員採用試験や保育士試験などで出題されやすい重要な点を取り上げつつ、教育現場で必要とされている事柄を察知し、それに呼応できるような内容を目標としました。その結果、「特別支援と個性に応じた教育」や「外国語学習と異文化理解」といった章を含めることができます。これまでにない発達と教育のテキストに仕上がったものと思われます。ぜひ多くのみなさまにご一読いただき、ご批判を仰ぐことができれば幸いに存じます。

このような前例のあまりない企画を温かく見守って、丁寧な作業で本書を仕上げてくださった樹村房の大塚栄一氏と石橋雄一氏に重ねて感謝申し上げます。また、本書を生みだすことができたのも前書が存在したからこそです。前書『教育の方法』の著者で、本書のコンセプトの基盤を作ってくださった大阪府立大学の岡本真彦先生と名古屋大学の北神慎司先生に厚く御礼申し上げます。

2011年5月10日

執筆者を代表して 林 創

引用文献（アルファベット順）

- 赤木和重 (2008). 乳児の意図理解の発達 加藤義信 (編) 資料でわかる認知発達心理学入門 ひとなる書房, pp.44-59.
- 青木多寿子・丸山(山本)愛子 (2010). ヴィゴツキーの社会文化的視点 森 敏昭・青木多寿子・淵上克義 (編) よくわかる学校教育心理学 ミネルヴァ書房, pp.100-101.
- 荒木紀幸 (2002). 道徳性の発達 山内光哉 (編) 発達心理学・上 (第2版) ナカニシヤ出版, pp.137-147.
- Arnberg, L. (1991). Raising bilingually : The pre-school years. Multilingual Matters Ltd.
- Astington, J. W. (1993). *The child's discovery of the mind*. Cambridge, MA : Harvard University Press.
- Atkinson, R.C. & Shiffrin, R.M. (1968). Human memory : A proposed system and its control processes. In K.Spence and J.Spence (Eds.), *The Psychology of Learning and Motivation*, 2, New York : Academic Press.
- Baddeley, A.D. (2000). The episodic buffer : A new component of working memory? *Trends in Cognitive Sciences*, 4, 417-423.
- Baillargeon, R., & Graber, M. (1987). Where's the rabbit? 5.5-month-old infants' representation of the height of a hidden object. *Cognitive Development*, 2, 375-392.
- Baker, W., Trofimovich, P., Flege, J.E., Mack, M., & Halter, R. (2008). Child-adult differences in second-language phonological learning : The role of cross-language similarity. *Language and Speech*, 51, 317-342.
- Bandula, A., Grusec, J. E., & Menlove, F. L. (1967). Vicarious extinction of avoidance behavior. *Journal of Personality and Social Psychology*, 5, 16-23.
- Baron-Cohen, S., Leslie, A., & Frith, U. (1985). Does the autistic child have a "theory of mind"? *Cognition*, 21, 37-46.
- 別府 哲 (2005). TEACCH プログラム：自閉症の包括的支援 子安増生 (編) よくわかる認知発達とその支援 ミネルヴァ書房, pp.184-185.
- Blakemore, S. J. & Frith, U. (2005). *The learning brain : Lessons for education*. Oxford : Blackwell. (乾 敏郎・山下博志・吉田千里 (訳) (2006). 脳の学習力—子育てと教育へのアドバイス— 岩波書店)
- Bowlby, J. (1969, 1971, 1973). *Attachment and loss*. Vol.1-3. New York : Basic Books. 黒田実郎他 (訳) (1976, 1976, 1981). 母子関係の理論 岩崎学術出版
- Bruer, J. T (1993). *School for thought : A science of learning in the classroom*. MIT press.
- (ブルーアー, J. T. 松田文子・森敏昭 (監訳) (1997). 授業が変わる—認知心理学と教育実践が手を結ぶとき— 北大路書房)
- Bryant, P., & Nunes, T. (2002). Butterworth, G., & Harris, M. (1994). *Principle of Devel-*

引用文献

- opment Psychology. Lawrence Erlbaum Associates. (村井潤一 (監訳) 発達心理学の基礎を学ぶ-人間発達の生物学的・文化的基盤- ミネルヴァ書房) Children's understanding of mathematics. In U.Goswami (Ed.) *Blackwell Handbook of Childhood Cognitive Development*. 421-439.
- Demon, W. (1971). Early conceptions of positive justices as related to the development of logical operation. *Child Development*, 46, 301-312.
- 遠藤利彦 (2004). 觀察法 高野陽太郎・岡 隆 (編) 心理学研究法 有斐閣, pp.212-235.
- Ethnic Studies Oral History Project (1991). "Public education in Hawaii." University of Hawaii Manoa Library.
- 越中康治・前田健一 (2004). 被分配者の努力要因が幼児の分配行動に及ぼす影響, 広島大学心理学研究, 4, 103-113.
- Erikson, E. H., & Erikson, J. M. (1997). *The life cycle completed (Extended version)*. New York : W. W. Norton.
- Foley, M.A., Hughes, K., Librot, H., & Paysnick, A. (2009). Imagery encoding effects on memory in the DRM paradigm: A test of competing predictions. *Applied Cognitive Psychology*, 23, 828-848.
- Frith, U. 富田真紀・清水康夫 (訳) (1989). 自閉症の謎を解き明かす 東京書籍
- Frydman, F., & Bryant, P. (1988). Sharing and the understanding of number equivalence by young children. *Cognition Development*, 3, 323-339.
- 藤田哲也 (2007 a). 教育心理学について学ぶ意味 藤田哲也 (編) 絶対役立つ教育心理学 ミネルヴァ書房, pp.1-14.
- 藤田哲也 (2007 b). 学習のメカニズム 藤田哲也 (編) 絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を実践— ミネルヴァ書房
- 藤村邦博・大久保純一郎・箱井英寿 (編著) (2000). 青年期以降の発達心理学 北大路書房
- 藤村宣之 (2005). 加齢: 年齢を重ねることによる変化 子安増生 (編) よくわかる認知発達とその支援 ミネルヴァ書房, pp.4-5.
- 藤岡久美子 (2010). 頭が良いってどういうこと? 川島一夫・渡辺弥生 (編) 図で理解する発達 福村出版, pp.121-134.
- Gelman, R. (1972). Logical capacity of very young children: Number invariance rules. *Child Development*, 43, 75-90.
- Gelman, R. & Gallistel, C. R. (1978). *The child's understanding of number*. Harvard Univ. Press. (ゲルマン, R & ガリストル, C. R 小林芳郎・中島 実 (訳) (1988). 数の発達心理学 田研出版)
- 郷式 徹 (2003). 乳幼児が世界を知るメカニズム 無藤 隆・岩立京子 (編) 乳幼児心理学 北大路書房 pp.31-44.
- Greene, D., & Lepper, M. R. (1974). Effects of extrinsic rewards on children's subse-

- quent intrinsic interest. *Child Development*, 45, 1141–1145.
- 林 創 (2002). 児童期における再帰的な心的状態の理解 教育心理学研究, 50, 43–53.
- 林 創 (2006). 二次の心的状態の理解に関する問題とその展望 心理学評論, 49, 233–250.
- 林 創 (2007). 発達の理論—発達を見つめる枠組み. 藤田哲也 (編) 絶対役立つ教育心理学—実践の理論理論を実践— ミネルヴァ書房 pp.117–131.
- 平井信義・山田まり子 (1989). 子どものユーモア：おどけ・ふざけの心理, 創元社
- 細野美幸 (2006). 子どもの類推の発達—関係類似性に基づく推論— 教育心理学研究, 54, 300–311.
- Huttenlocher, P.R. and Dabholkar, A.S. (1997). Regional differences in synaptogenesis in human cerebral cortex. *The Journal of Comparative Neurology*, 387, 167–178.
- 今井信一 (2010). イマージョン・プログラムを受けている生徒の英語能力に関する研究. 日本教育心理学会第52回大会発表論文集, 508.
- 稻垣佳代子 (1995). 生物概念の獲得と変化—幼児の素朴生物学をめぐって 風間書房
- 稻垣佳代子 (1996). 概念的発達と変化 波多野謙余夫 (編) 認知心理学5 学習と発達 東京大学出版会, pp.59–86.
- 井上智義 (1999). 人間の情報処理における聴覚言語イメージの果たす役割 北大路書房
- 井上智義 (2009). 誤解の理解：対話115例で解説するコミュニケーション論 あいり出版
- 井上智義 (1995). 「おどけ／ふざけ」(岡本夏木・清水御代明・村井潤一監修 発達心理学辞典, pp.68) ミネルヴァ書房
- 井上智義 (1998). マウイの日系二世の教育と言語環境：オーラル・ヒストリーの分析をもとにした心理的アプローチ (沖田行司編 ハワイ日系社会の文化とその変容 第5章, 127–155) ナカニシヤ出版
- 井上智義・清水寛之・湯川隆子 (2002). 心理学者の在外研究生活に関する調査研究 (2). 日本教育心理学会第44回総会発表論文集
- 井上智義 (2002). 幼児のメタ言語能力とコミュニケーション (村井潤一編 乳幼児の言語・行動発達：機能連関的研究 第4章, 第3節, pp.304–324) 風間書房
- 井上智義 (2005). バイリンガルの言語習得と生活文化 (同志社大学教育文化学研究室編著 教育文化学への挑戦 第4章, 100–125.) 明石書店
- 井上智義 (2007). 比喩とアナロジー的思考 井上智義・岡本真彦・北神慎司 教育の方法—心理学をいかした指導のポイント— 樹村房, pp.18–19.
- 井上智義・山名裕子 (2008). 大学生の幼児期の記憶 (2)–繰り返しの出来事と一度きりの出来事の記憶の比較-日本心理学会第72回大会論文集, p.885.
- 石崎一記 (2004). 発達を促す 桜井茂男 (編著) 楽しく学べる最新教育心理学—教職にかかわるすべての人に— 図書文化社, pp.23–39.
- 磯部 潮 (2005). 発達障害かもしれない—見た目は普通の、ちょっと変わった子 光文

引用文献

社新書

- 板倉昭二 (2007). 心を発見する心の発達 京都大学学術出版会
- 伊藤直樹 (編) (2006). 教師をめざす人のための青年心理学 学陽書房
- 岩男卓実・植木理恵 (2007). メタ認知と学習観 藤田哲也 (編) 絶対役立つ教育心理学 ミネルヴァ書房, pp.101–115.
- 金子智栄子 (2003). 自己と情動の発達 無藤 隆・岩立京子 (編) 乳児心理学 北大路書房, pp.87–102
- 川畑 隆・菅野道英・大島 剛・宮井研治・笹川宏樹・梁川 恵・伏見真里子・衣斐哲臣 (2005). 発達相談と援助—新版K式2001を用いた心理臨床 ミネルヴァ書房
- 木下孝司 (2005). 飼化／脱飼化：見慣れないものを区別する子安増生編 よくわかる認知発達とその支援 ミネルヴァ書房, pp.84–85.
- 木下孝司 (2008). 乳幼児期における自己と「心の理解」の発達 ナカニシヤ出版
- 木下孝司 (2010). 子どもの発達に共感するとき—保育・障害教育に学ぶ 全国障害者問題研究会出版部
- 小林春美 (1995). 語彙の発達 大津由紀雄 (編) 認知心理学3 言語 東京大学出版会, pp.65–79.
- 子安増生・西垣順子・服部敬子 (1998). 絵本形式による児童期の〈心の理解〉の調査 京都大学教育学部紀要, 44, 1–23.
- Kuhl, P. K., Tsao, F. M., & Liu, H. M. (2003). Foreign-language experience in infancy: Effects of short-term exposure and social interaction on phonetic learning. *Proceedings of National Academy of Sciences*, 100, 9096–9101.
- 鯨岡 峻 (2008). 子どもの発達を「過程」として捉えることの意味 発達, 113, 18–25.
- 日下正一 (1993). 認知心理学的発達観に組み込まれた R. Gelman (1972) の実験の批判的検討 心理科学, 15, 22–45.
- Leekam, S. (1991). Jokes and lies: Children's understanding of intentional falsehood. In A. Whiten (Ed.), *Natural theories of mind: Evolution, development and simulation of everyday mindreading* (pp.159–174). Oxford: Basil Blackwell.
- Lewin, K. L. (1951). *Field theory in social science: Selected theoretical papers*. New York: Harper & Brothers. 猪股佐登留 (訳) (1956). 社会科学における場の理論 誠心書房
- 正高信男 (2004). 天才はなぜ生まれるか ちくま新書
- 松村暢隆 (1995). 子供はどういう心を発見するか—心の理論の発達心理学 新曜社
- 正高信男 (2009). 天才脳は「発達障害」から生まれる PHP新書
- 松沢哲郎 (2002). 進化の隣人ヒトとチンパンジー 岩波新書
- McCloskey, M., Washburn, A., & Felch, L. (1983). Intuitive physics: The straight-down belief and its origin. *Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition*, 9, 636–649.
- McGhee, P.E. (1979). "Humor: Its origin and development." San Francisco: W.H. Freeman and Company.

- 丸山真名美 (2008). 時間概念の発達 加藤義信 (編) 資料でわかる認知発達心理学入門 ひとなる書房, pp.120–133.
- 丸山良平・無藤 隆 (1997). 幼児のインフォーマル算数について 発達心理学研究, 8, 98–110.
- 明和政子 (2006). 心が芽生えるとき NTT 出版
- Mitchell, P. 菊野春雄・橋本祐子 (2000). 心の理論への招待 ミネルヴァ書房
- 箕浦康子 (1990). 文化的な子どもの文化 東京大学出版会
- 水谷宗行 (2002). 発達と学習 弓野憲一 (編) 発達・学習の心理学 ナカニシヤ出版, pp.1–4.
- 無藤 隆 (1998). 自ら学ぶ子を育てる 金子書房
- 無藤 隆 (編) (2004). よくわかる発達心理学 ミネルヴァ書房
- 文部科学省 (2008). 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
- 村井潤一 (1987). 発達と早期教育を考える ミネルヴァ書房
- 中島 実 (1997). 社会的認知 北尾倫彦・中島 実・井上 穀・石王敦子 (編) グラフィック心理学 サイエンス社, pp.87–114.
- 中間玲子 (2007). 青年期の発達 藤田哲也 (編) 絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を実践— ミネルヴァ書房, pp.183–200.
- 中島信子 (2008). 子どもは「物理学者」か—地球は平ら, それとも丸い? 内田伸子 (編) よくわかる乳幼児心理学 ミネルヴァ書房, pp.170–171.
- 中沢和子・丸山良平 (1998). 保育内容 環境の探求 相川書房
- 西林克彦 (1988). 面積判断における周長の影響—その実態と原因 教育心理学研究, 36, 120–128.
- 西林克彦 (1994). 間違いだらけの学習論 新曜社
- 大久保義美 (2002). 発達の概念 内田照彦・増田公男 (編) 要説 発達・学習・教育臨床の心理学 北大路書房, pp.12–21.
- 大坪治彦 (2004). 親の顔を見分ける赤ちゃん 無藤 隆・岡本祐子・大坪治彦 (編) よくわかる発達心理学 ミネルヴァ書房, pp.20–21.
- 大村彰道 (編) (1996). 教育心理学 I 発達と学習指導の心理学 東京大学出版会
- J. ピアジェ (著)・中垣啓 (訳) (2007). ピアジェに学ぶ認知発達の科学 北大路書房
- Piaget, J., & Szeminska, A. (1941). *La genèse du nombre chez l'enfant*. Delachaux et Niestle S. A. (ピアジェ, J.・シュミンスカ, A. 遠山啓・銀林浩・滝沢武久 (訳) (1962). 数の発達心理学 国土社)
- Premack, D., & Woodruff, G. (1978). Does the chimpanzee have a theory of mind? *The Behavioral and Brain Sciences*, 1, 515–526.
- Premack, D. & Premack, A. J. (1997). Infants attribute value + or- to the goal-directed actions of self-propelled objects. *Journal of Cognitive Neuroscience*, 9, 848–856.
- Premack, A. J. & Premack, D. (2003). *Original intelligence: Unlocking the mystery of who we are*. New York: McGraw-Hill. 鈴木光太郎・長谷川寿一 (訳) (2005). 心の発

引用文献

- 生と進化—チンパンジー、赤ちゃん、ヒト— 新曜社
- 佐伯 肥 (2004). 「わかり方」の探求 小学館
- 坂田陽子 (2008). 乳幼児の知覚世界 加藤義信 (編) 資料でわかる認知発達心理学入門 ひとなる書房, pp.12-27.
- Sarnecka, B. W., Kamenskaya, V. G., Yamana, Y., Ogura, T., & Yudovina, Y. B. (2007). From grammatical number to exact numbers: Early meanings of 'one', 'two', and 'three' in English, Russian, and Japanese. *Cognitive Psychology*, 55, 136-168.
- 芝崎美和 (2010). 何が良いこと? 悪いこと? 川島一夫・渡辺弥生 (編) 図で理解する発達—新しい発達心理学への招待— 福村出版, pp.177-190.
- 嶋津峯眞 (監修).・生澤雅夫・松下裕・中瀬 悅 (編) (1992). 新版 K式発達検査法—発達検査の考え方と使い方— ナカニシヤ出版
- 清水美智子 (1996). 遊びと学習—発達と教育における遊びの意義 高橋たまき・中沢和子・森上史郎 (共著) 遊びの発達学—展開編 培風館 pp.130-152.
- 白井利明 (2001). 〈希望〉の心理学—時間的展望をどうもつか 講談社
- Siegler, R. S. (1996). *Emerging minds*. Oxford University Press.
- 外山紀子・外山美樹 (2005). やさしい発達と学習 有斐閣
- 鈴木亜由美 (2010). 道徳性の発達 森 敏昭・青木多寿子・淵上克義 (編) よくわかる学校教育心理学 ミネルヴァ書房, pp.120-121.
- Squire, S., & Bryant, P. (2002). The influence sharing on children's initial concept of division. *Journal of Experimental Child Psychology*, 81, 1-43.
- Starkey, P., & Cooper, R. G. Jr. (1980). Perception of numbers by human infants. *Science*, 210, p.1033-1035.
- 立元 真 (2004 a). 困ったことをするようになる 無藤 隆・岡本祐子・大坪治彦 (編) よくわかる発達心理学 ミネルヴァ書房, pp.52-53.
- 立元 真 (2004 b). うそをつく 無藤 隆・岡本祐子・大坪治彦 (編) よくわかる発達心理学 ミネルヴァ書房, pp.54-55.
- 多賀巖太郎 (2002). 脳と身体の動的デザイン 金子書房
- 高橋 晃 (1994 a). 環境閾値説 重野 純 (編) キーワードコレクション心理学 新曜社, pp.320-323.
- 高橋 晃 (2004 b). 行動療法 重野 純 (編) キーワードコレクション心理学 新曜社
- 田上不二夫 (1984). 恐怖症・不安神経症 祐宗省三・春木 豊・小林重雄 (編) 新版行動療法入門 川島書店
- 田中あゆみ (2007). 動機づけの基礎 藤田哲也 (編) 絶対役立つ教育心理学—実践の理論、実践を実践— ミネルヴァ書房, pp.31-41.
- 高杉自子 (2006). 子どもともにある保育の原点 ミネルヴァ書房
- 丹野義彦・坂本真士・石垣琢磨 (2009). 臨床と性格の心理学 岩波書店
- 多鹿秀継 (2009). 人間の発達と児童期 多鹿秀継・南 憲治 (編) 児童心理学の最先

- 端 あいり出版, pp.2–13.
- 戸田まり (2004). 大人も変わる 無藤 隆・岡本祐子・大坪治彦 (編) よくわかる発達心理学 ミネルヴァ書房, pp.186–187.
- Tomasello, M. (1999). *The Cultural Origins of Human Cognition*. Harvard University Press. 大堀壽夫・中澤恒子・西村義樹・本多 啓 (訳) (2006). 心とことばの起源を探る—文化と認知— 効草書房
- 富田昌平 (2008). 子どもの「想像世界」のヒミツ 都筑学 (編) やさしい発達心理学—乳児から青年までの発達プロセス— ナカニシヤ出版, pp.119–138.
- Torrance, E. P. (1974). *Torrance Tests of Creative Thinking. Scholastic Testing*. Service, Inc..
- 塚越奈美 (2007). 幼児期における願いごとに関する理解：「魔術的」に見える現象をどのように理解するのか？ 発達心理学研究, 18, 25–34.
- 津守 真 (2002). 乳幼児精神発達診断法 松原達哉 (編) 第4版心理テスト法入門—基礎知識と技法習得のために— 日本文化科学社 pp.40–41.
- 常田美穂 (2008). コミュニケーション能力の発達 加藤義信 (編) 資料でわかる認知発達心理学入門 ひとなる書房, pp.28–43.
- 津々清美 (2010). 報酬量の違いが5歳児の報酬分配行動に及ぼす影響, 心理学研究, 81, 201–209.
- 都筑 学 (1999). 大学生の時間的展望—構造モデルの心理学的検討 中央大学出版部
- 宇田倫子 (1996). 認知の発達 菅俊夫 (編) 発達心理学 法律文化社, pp.62–86.
- 渡辺弥生 (1992). 幼児・児童における分配の公正さに関する研究 風間書房
- Wellman, H. (1990). *The child's theory of mind*. MIT Press.
- Wimmer, H., & Perner, J. (1983). Beliefs about beliefs: Representation and constraining function of wrong beliefs in young children's understanding of deception. *Cognition*, 13, 103–128.
- Winnicott, D. W. (1971). *Playing and reality*. New York: Basic Books. 橋本雅雄 (訳) (1979). 遊ぶことと現実 岩崎学術出版社
- Wynn, K. (1990). Children's understanding of counting. *Cognition*, 36, 155–193.
- Wynn, K. (1992). Addition and subtraction by human infants. *Nature*, 358, 749–750.
- 山口真美 (2005). 視覚世界の謎に迫る 講談社ブルーバックス
- 山本利和 (2002). 知能の定義 内田照彦・増田公男 (編) 要説 発達・学習・教育臨床の心理学 北大路書房, pp.53–56.
- 山本利和 (2000). 知能とことばの発達 内田照彦・松田公男 (編) 要説 発達・学習・教育臨床の心理学 北大路書房, pp.53–60.
- 山名裕子 (2005). 幼児における配分方略の選択：皿1枚あたりの数の変化に着目して 発達心理学研究, 16, 135–144.
- 弓野憲一 (2002). 知能と創造性の発達と育成 弓野憲一 (編) 発達・学習の心理学 ナカニシヤ出版, pp.97–112.

[執筆者]

井上智義（いのうえ・ともよし）

1982 京都大学大学院教育学研究科博士課程退学

1997 博士（教育学）

現在 同志社大学社会学部教授

主著 『教育の方法』（共著）樹村房（2007），『福祉の心理学』（単著）サイエンス社（2004），『異文化との出会い！ 子どもの発達と心理：国際理解教育の視点から』（編著）ブレーン出版（2002）

山名裕子（やまな・ゆうこ）

2002 神戸学院大学大学院人間文化研究科博士課程単位取得後退学

2004 博士（人間文化学）

現在 秋田大学教育文化学部准教授

主著 『児童心理学の最先端—子どもの育ちを科学する』（共著）あいり出版（2009），『誤解の理解』（共著）あいり出版（2009），『幼児における均等配分行動の発達的変化』（単著）風間書房（2005）

林 創（はやし・はじめ）

2003 京都大学大学院教育学研究科博士課程修了

2003 博士（教育学）

現在 神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授

主著 『大学生のためのリサーチリテラシー入門—研究のための8つの力—』（共著）ミネルヴァ書房（2011），『再帰的事象の認識とその発達に関する心理学的研究』（単著）風間書房（2008），『絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を実践—』（共著）ミネルヴァ書房（2007）

発達と教育 心理学をいかした指導・援助のポイント

2011年5月25日 初版発行

2015年11月6日 初版第3刷

著 者 © 井 上 智 義
山 名 裕 子
林 創
検印廃止 発 行 者 大 塚 栄 一

発行所 株式会社 **樹村房**
JUSONBO

〒112-0002 東京都文京区小石川5丁目11番7号

電 話 東 京 (03) 3868-7321

F A X 東 京 (03) 6801-5202

<http://www.jusonbo.co.jp/>

振替口座 00190-3-93169

印刷・製本／亜細亜印刷株式会社
ISBN 978-4-88367-199-1 亂丁・落丁本はお取り替えいたします。

【9の指導と援助のポイントの解説】

発達過程の理解

発達心理学の基本的な考え方、ピアジェやヴィゴツキーなどの基礎的な理論を紹介しています。発達心理学は乳幼児期の問題はもちろん、胎児期から老年期まで、人間の一生涯の発達の問題を扱います。何歳になれば何ができるか、というような単純な理解だけでなく、外からは見えにくい発達過程の問題を理解して、一人ひとりの子どもに応じた教育を考えることが重要です。

学習と記憶の基礎

心理学の用語としての「記憶」や「学習」は、非常に幅の広いものです。私たちの思考や行動も、すべて記憶によって支えられています。学習によってその記憶も変化します。また、記憶にはさまざまな種類の記憶があります。それぞれの特徴を知っておくと、効果的な教育、効率のよい学習が可能になります。

子どもの行動と適切な援助

子どもの立場に立って子どもの行動の意味を読みとることは、じつに難しいことです。かりに一つの同じ行動ができるようになったとしても、誰かに強制されたのと、自ら自発的にしたのとではその意味するところは異なります。「正しい」行動を教えて、結果を急ぐのではなく、子ども自身が考え、変化するのを待つ姿勢も、好ましい援助には必要な場合があります。子どもがじっくり考えることができる環境づくりは、もちろん大切です。

認知発達の基礎

赤ちゃんは、生まれる前から、お母さんの声や周囲の音を聞き、認知情報処理の準備をしています。生後まもない赤ちゃんにも、多くのことが認識できていると思われます。また、子どもは「小さなおとな」ではありません。子どもなりに物事を理解して、子どもなりに毎日多くの問題解決をしています。数概念の発達やことばの発達の基礎もこちらの章で紹介されています。

遊びの中の学び

早期教育の重要性が呼ばれていますが、ほんとうに何もかも早くから学習することに大きな意味があるのでしょうか。むしろ、時間的な制約により自発的な遊びが阻害されるという意味では、マイナスの側面があることも見逃せません。幼児期における自発的な遊びを観察していると、子どもたちが、その中で多くの事柄を身につけていく様子がよくわかります。

特別支援と個性に応じた教育

障がいの診断名だけでは、目の前にいる眞の子どもの姿を把握することはできません。同じ診断名をもっている子どもであっても、一人ひとりはみんな異なる個性豊かな人間です。しかし、そのような子どもたちと接するときには、さまざまな障がいの一般的な特徴を知識として持ち合わせていることは重要です。そのうえで、一人ひとりの個性に着目して、より適切な支援ができるように心がけたいものです。

社会的認識の基礎

ヒトはひとりで生きていくことはできません。ヒトは信頼できる他者とかかわるなかで、自分の気持ちを表現できるようになり、相手の気持ちにも、少しずつ敏感になっていきます。他者とのコミュニケーションの基礎となるようなものも、そのようななかで育まれます。いま話題の「心の理論」も、この章でわかりやすく紹介されています。

外界の認知と社会性の発達

いわゆる常識が少ないと、独創的な思考が可能になる場合があります。普通に考えると、まったく別の二つの事柄の間にも、類似性や共通性が見出されることがあります。おとなに比べて常識が少ないと考えられる子どもは、自分の周りの世界をどのようにとらえているのでしょうか。子ども特有の、一見おかしな認知や行動も、この章を読むと理解できるかもしれません。子どもの「うそ」も、そういう視点でとらえると、さまざまな解釈が可能です。

外国語学習と異文化理解

いわゆる異文化を抵抗なく受け入れができるのは、年少の子どもたちの特徴のひとつです。外国語の発音を素直に聴き取り、子どもがそのまま発音できることも、多くのおとなにはマネができません。だからといって、子どもの意に反して、小さなときから英語を習わせたり、無理やり海外に連れていったりというのも、子どもが感じるストレスという意味では、慎重になる必要があります。また異文化を理解するとはどういうことなのか、この章にヒントがあると思います。